



3年生が2年生に「ガイダンス」を行いました

昨日13日(月)に教室をまわっていると、3年生教室から賑やかな声が聞こえてきました。2年生の子供たちが、生活科で3年生の体験をしていました。これは、3年生になって2年生の子供たちが初めて習うことを中心に、3年生の子供たちが2年生に説明するというものです。教室内外を分けし、「習字」「外国語」「総合的な学習の時間」「音楽」「理科」「社会」など3年生で習うコーナーを作っていて、「ガイダンス」を行っていました。3年生の子供たちに感想を聞いてみました。「『🔴帯西レッド』の心が伸びました。音楽で優しく教えて、最後の感想でも2年生が音楽について感想を言ってくれて、やった甲斐がありました。」「『🟡帯西イエロー』の心が育ちました。なぜならこの学習で、低学年と優しく接しようという気持ちが芽生え、みんなで協力し、楽しい学級や学校にしようという心が伸びたと思うからです。」「『🔴帯西レッド』の心が伸びました。理由は、理科の磁石を使った実験をやって、2年生が『すごい』や『なんで?』と質問をして、3年生の勉強に興味を持たせることができたからです。」「『🟢帯西グリーン』の心が伸びました。理由は、初めて2年生と一時間遊んで、最初は親切にできるかわからなかったけど、2年生が来てクイズとかにもたくさんの方が来てくれて、2年生のいろんな子と関わって親切にできたので、3年生になるとこんな楽しいことがあるんだと教えることができたと思いました。」など、成長した3年生の姿がありました。



図書室での光景

昨日図書室では、1年生が図書室を利用していました。図書室の西村先生から、ちょうど賞状をもらっていました。何の賞状か聞いてみると、1年間で図書の本を100冊以上借りた人に手作り賞状を渡しているということです。(達成目標は、低学年100冊、中学年80冊、高学年70冊だそうです)子供たちに聞くと、「うれしいです。」「これからもたくさん本を読みたいです。」「という感想が返ってきました。



読書には、テレビや動画などのメディアには代えられない大切な働きがあります。それは、イメージする力が育つということです。本を読むときには、読み取った文字を頭で映像化しています。本を読むことで、頭の中でイメージを創り出す訓練をすることになります。最新の脳科学の研究でも、「読書習慣がある子どもほど言語に関連する脳の部位が発達している」ことが分かっています。これからも本に親しんで欲しいと思います。